



ニュー公楽グループ(山田栄作社長)は、岩手県を中心に、パチンコ店10店、パチスロ店、食堂など8店、不動産業など幅広い分野で事業を展開する企業グループです。創業は1959年(昭和34年)、3年前、創立50周年を迎えました。

これを機に新たな企業理念を掲げ、お客様に夢と希望を届け、引き続き企業を指して再出発しました。その矢先のことでした。東日本大震災が東北地方を襲い、公楽グループでは宮古市に展開していた磯鶏店が津波の被害を受け、閉鎖のやむなきに至りました。

ただ、ここで公楽は負けてはいませんでした。震災直後から、被災地支援のボランティア活動に全社を挙

ニュー公楽グループ

げて取り組みました。3月26日まで、被害のなかった店舗も含めて休業とし、社員を動員して、被災地での炊き出し、洗濯などの活動を行いました。宮古市は公楽グループの発祥の地であり、山田社長以下社員の地域への思い入れはことのほか強かったようです。

震災直後の大混乱がひとまず収まると、公楽では被災地に少しでも笑顔を取り戻そうと、社内で議論の結果「スマイルプロジェクト」を立ち上げました。その第一回が、5月28日、宮古市で被災した磯鶏店の敷地を利用して開かれたフリーマーケット。グループの関係会社や取引先企業の協力で集められた生活必需品の

すぐに必要な物が格安で提供されたフリーマーケットは大盛況



ニュー公楽グループ活動報告書

今、私たちに出来ること「思いを形に」

1st フリーマーケット

5月28日(土) ニュー公楽グループ宮古市でフリーマーケットを開催しました。当日は雨の中、約800人のお客様にご来場頂きました。

売り上げ総額 **¥280,700**

笑顔の輪基金として宮古市に全額寄付させて頂きました。

雑貨や社員が集めてきた古着など、被災者にとっては今すぐ必要な品物が格安で提供されました。

焼きそばやたこ焼き、丼モノなどの飲食のコーナーも大盛況でした。子どもたちのための遊具や似顔絵コーナーなども大好評で、雨の中でしたが800人が詰めかけました。売上金は宮古市へ全額そのまま寄付されました。

子供たち大喜び「大夏祭り」

第2回は7月31日、宮古市内の老木公園を借りて「第2回大夏祭り」を盛大に催されました。前回大好評だったフリーマーケット、飲食コーナーなどに多くの人が詰めかけました。夏祭りとあって、催しものも流しうめんにすいか割り、大抽選会、イベントコーナーでは、金魚すくい、カップトムシ販売など、子供たちが大喜びするシーンが多々見られました。詰めかけた人々は1200人、1回目の倍を超える売上だったといえます。こうした地域イベントに、パチンコ企業の持つ意外な力を感じさせます。

第3回は11月19日、いさと湯つたり館で「第3回がんばろうパークふれあい

復興応援ライブでは、太鼓などの地元の芸能なども披露された



秋祭り」を開催。恒例のフリーマーケット、縁日コーナー、復興応援ライブでは、太鼓などの地元の芸能やバンドの音楽なども披露されました。お楽しみ抽選会も相変わらず大好評。雨の中でも700人が詰め掛けました。復興支援活動はこれにとどまりませんが、いずれのイベントもじつに鮮やかなお手並みです。それもそのはず、公楽では日常的にも地域の清掃活動やフリーマーケットの開催などの地域貢献活動に積極的に取り組んでいます。最近では、CO2削減や省エネなど、環境保護活動にも熱心です。公楽グループ管理課の富田聖治氏は、そんなグループ社員の心意気を「これまで地元岩手で多くの方々に支えられてきました。今後、笑顔の輪を広げる活動を続けていきます」と述べています。